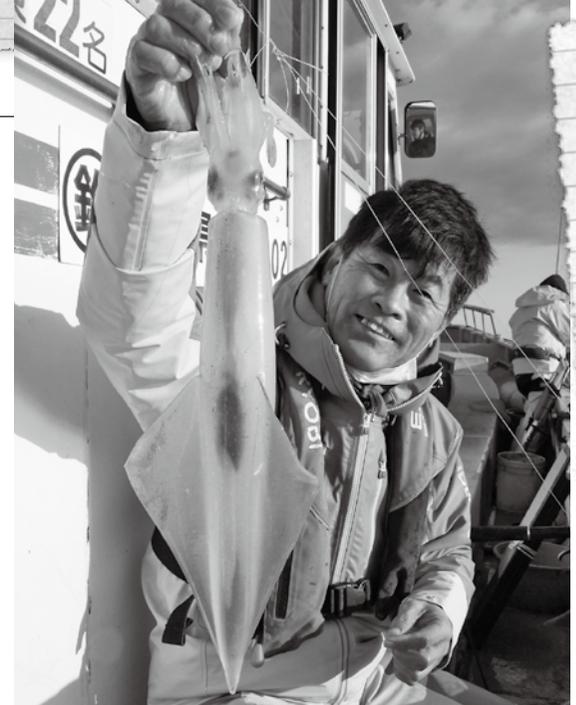


•Tackle Guide
 ブラツノ 11センチのプランコ仕掛けてOK。サバが多いとき 14センチの直結仕掛けを使うのも手だが、タナが底中心なのでツノ数を5本前後と少なくしたほうが扱いやすい。釣り場が深いのでヨリ取りリングを付けて糸ヨレを軽減しよう。

◆当日のヤリイカタックル
 竿 11タイプ・極鋭ヤリイカ200MH-160AGS
 ヨリ取りリング
 3000MJ
 リールシーボーク
 幹系IIロコカーボン5号 枝系II同3号
 幹系II10号
 ツノIIプランツノ11cm 各色
 ツノIIプランツノ14cm 各色
 オモリ=150号
 オモリ=150号

と船長がアナウンス。ほとんどが丸まると太ったマサバで皆さん大事にクーラーにしまっていた。
 一方、右ミヨシの酒井さんがすかさず直結仕掛けにチェンジして着々とヤリイカを上げています。この方は私が前回同船で取材をしたときも乗船しており、快く撮影に協力してくれたイカ釣りの大ベテランだ。

船内ポツポツとヤリイカが上がるものの、ほとんどが単発か2点掛けで下側のツノばかりに乗っている。
 おそらくサバの群れが底付近にもいて、ヤリイカが警戒して浮いてこないのだろう。山崎さんもこの展開に苦戦していたので、彼の竿を借りてレクチャーをすることに。投入後、仕掛けが底上10メートルに到達したら、スプーに親指を軽く押し当て、ブレイキをかけたつゆつくり下ろしてイカにツノの存在をアピール。
 着底後、一呼吸を置いてからジワッと聞き上げ、乗りがなければ再着底させる。続いて数回タキを入れ、ピタッと止めてゼロテンションで待つ。すると、竿先がモアモ



▲大型のオスが釣れ盛る春のトップシーズンは目前
 ▲ベテランの酒井さんは直結仕掛けで良型連発

旬の沖釣りをエンジョイ!

今がチャンス!
 これから楽しみ!

釣りどきレポート

Best Season Report

暦の上では春を迎えたものの、もうしばらく厳しい冷え込みが続きそうです。早朝は路面の凍結に注意して釣行しましょう。

▼シルエットが太めの「さかな針」によく乗った



この記事が出るころには皆さんも春の気配を近辺に感じているのではなからうか。沖釣りでも春を感じさせてくれる様々な魚やイカがいる。南房で釣れ始めるヤリイカもその一つで「春ヤリ」と呼ばれ釣り人たちが熱くする。1月中旬からヤリイカの模様が出てきたとの報を受け、下旬に南房布良港の良和丸に仲間2人と出かけた。
 6時過ぎ、乗船者9名で港を離れる。実は取材日の1週間前に同船のヤリイカの試し釣りに参加したのだが、その日は洲ノ崎沖でスルメイカを狙ったあと、ヤリイカに転進して白浜沖に移動したのだが、

仕掛けの落とし穴
 水深190〜210メートルとやや深いポイントで再開。するとさつそく船内各所でヤリイカとスルメイカが上がり、それまでイカの顔を見ていなかった釣友の細田さんもヤリイカを連釣してスパートをかける。このころにはサバの気配も消え失せ、皆さんのオケの中のイカが順調に増えいく。
 山崎さんが「着乗り!」と言って巻き上げを開始すると、グングン竿がしなってギュー



アしたので合わせるとズシツ下から2番目のケイムラのツノに胴長35センチのヤリイカが抱き着いて上がってきた。その後もヤリイカとスルメイカがポツポツ乗ったが、相変わらずサバの邪魔が多く、船長は船団を離れて布良沖を探索。しかしいい反応が見つからなかったのか、再び白浜沖へと戻ることになった。

タイムロスがかなりあるので今回は早朝から白浜沖に向かうようだ。
サバも歓迎!?
 40分ほど走ってポイントに到着。
 「水深は165メートル。底から5メートルまでリサーチしてください」志村良一船長のアナウンスで一斉に仕掛けが投げ込まれた。

ズシツと重いぞ大型ヤリイカ
 南房白浜沖もシーズンイン!

●南房布良港発↓布良〜白浜沖
 本誌APC(東京)鈴木良和 Yoshikazu Suzuki

活性が高い群れに当たると多点掛けも

最初の流しこそ空振りしたが、次の流しは釣友の山崎さんが「乗ったよ」とうれしそうに巻き上げ開始。幸先よく胴長40センチ級のヤリイカを釣り上げてニッコリ。
 1週間前はこのような良型は上がらず胴長25〜30センチ前後が多かったから、新しい群れが入ってきたのだろう。また、前回はいなかったサ

インギューインと電動リールのモーターがうなりを上げる。「重い重い」とうれしい悲鳴を上げながら取り込んだのはヤリイカ3杯、スルメイカ1杯の4点掛けだ。残り時間が2時間ほどになったところで私も参戦。するとすぐに乗ったが1杯で上げると効率が悪い。そこで追い乗りを狙ったのだが、後が続かないばかりか最初に乗ったイカが外れてしまった。抱きが浅いのか同じパターンバラシが何度か続き、追い乗りをあきらめ1杯ずつ上げることに。ヤリイカが乗るのは下側のツノばかりで着乗りが一度もない。ほかの人は高確率で2〜3杯乗せているのに、この差は何だろうか?

原因はおそらく使い古しのプラツノで作った私の仕掛け。活性が高いときはかまわず乗ってくるが、乗り決るイカはくすんだツノをスルーするのだから。ならばテクニクで乗せるしかない。あの手この手

の誘いを駆使して拾うようにイカを乗せ、9杯目を上げたところで沖揚がりの時間を迎えた。
 釣果は一人7〜32杯、ほとんどの人が20杯以上を手にしたようだ。スルメイカは1割程度だったと思う。
 南房のヤリイカはこれからトップシーズン。さらに型がよくなり釣果アップも望めるだろう。

バが群れを成して回っているようで、船内あちこちで竿が曲がり、中には4尾も5尾も掛かった人がいてひと騒動。しかし「この時期のサバは脂が乗っているから大きいのは持って帰りなさいよー」

●船宿information
 南房布良港
良和丸
 ☎0470-28-2965
 (詳細は巻末の情報欄参照)
 ▶料金=ヤリイカ乗合一人1万1000円(氷付き)
 ▶備考=予約乗合、5時半集合。無料駐車場あり



船上干しのすずめ
 イカが釣れたら船上干しを作ってみてはいかがだろうか。潮風と太陽の光にあてると水分が飛んで味が濃縮される。軽く炙ってマヨネーズしょう油とトウガラシを付けて食べるのが定番だが、船上干しの天ぷらや空揚げも美味。スルメイカはもちろんヤリイカの船上干しもおいしいのでお試しを。
 ▲ヤリイカの船上干しは焼いても軟らかい

